

2020年6月1日共同利用計算機利用者説明会 Q&A

日時：2020年6月1日（月）11時～12時

場所：web会議（Zoom）

1. Q&A

プロジェクト管理関連

- 試験運用時、PIあたりのプロジェクト数の制限はあるか？
 - 現状では制限はない。
- ポイントを購入するというのは、使用料を先払いするという意味か？それとも支払額の上限を設定して、実際に利用した分が請求されるということか？
 - 基本的にはポイント購入は先払いである。
- トライアルから本運用の有料化の前で一旦アカウントが止まるのか？それともその日からいきなり課金状態になるのか？
 - 基本的には連続的に使ってもらう予定である。ただし、予算番号の記入、PIの承認等が必要となるので、勝手に料金を徴収することはない。
- ポイントが余った場合はどうなるか？次年度に繰り越し or そのまま消滅か？
 - 年度末で消滅になる。
- トライアル期間中に仮に上限100万円に達した場合は追加購入できるか？
 - 100万を超えそうなときは相談して欲しい。
- 複数の予算番号を登録できますか？あるいは、途中で予算が足りなくなったときに予算番号を変えることはできるか？
 - 複数の予算番号については今後検討する。外部資金室と相談する必要がある、本運用前の利用者説明会で説明する予定である。
- 要望ですが、ポイントを事前にぴったり購入するのは不可能なので、請求書払いのような形で後払いにできると有り難い。
 - 検討する。
- オンデマンド型について、利用時間の上限などはあるか？

- ポイントの上限で決まる。ただし運用状況で変更する可能性はある。
- ポイントの購入履歴は研究室側で、一覧などで確認できるか？
 - オンライン申請システム (hss-desk) で確認できる。
- プール型とオンデマンド型の値段の違いがよく分からなかった。
 - 原則 CPU 単価やストレージ単価などの値段の違いはない。使い方として、オンデマンド型の方が資源の利用という点では効率的なのがメリット。プール型の方は確実に資源が確保できるのがメリットである。
- VM に割り当てるディスク容量を後から変更することは可能か？
 - 可能である。共有ディスクの容量はオンライン申請システム (hss-desk) で随時変更できる。
- 利用負担金が発生するストレージ領域を追加する場合は/home とは別にマウントする形か？ それとも/home を拡張できるか？
 - 利用負担金が発生するストレージ領域である共有ディスク領域 (Lustre 領域) を利用するためには、*-Lustre か *-Application イメージを使っていただくことになる。その場合、/home 領域が共有ディスク領域となる。/home は拡張できない。
- 資料付録のストレージ利用負担金のスライドで/home は対象外とありますが、どういふ場合に利用負担金が発生するか？
 - 対象外なのは HOKUSAI BW の/home である。HOKUSAI SS では共有ディスク領域を/home として利用することもあるが、これは利用負担金の対象である。
- 今日の説明会資料の英語版はあるか？
 - 以下の本説明会の英語の案内ページに掲載している。
<http://i.riken.jp/en/news1/2020-05-27/>
- 非居住者がいる場合は安全保障輸出関連の所内審査を行うことになっている。具体的にどのように手続きをすすめたらいいか？
 - 安全保障輸出管理の所内審査については現在調整中である。決まり次第お知らせする。

VM 関連

- オンデマンド型は、計算資源が空いていないときは、どういう挙動をするか？ CPU が空くまで実行したプログラムが CPU 利用率が 0 % で止まるか？あるいは、新しい VM が作れなくなるのか？

- 基本的には資源が空いていない時は使えない。フレーバーとして指定したリソース分の空きリソースが無い場合、イメージ作成は行えるがインスタンス起動処理に失敗する。
- VM の作成、起動や終了などがコマンドから実行できる API は開放されているか？
 - hssa.riken.jp / hssb.riken.jp に対して、openstack コマンドや RestAPI が使用できる。
- バックアップは取る必要があるか？
 - 今のスパコンと同じで冗長性は確保しているが、完全ではないので大事なデータは自分でバックアップをとってほしい。
- HOKUSAI BW とのデータのやり取りはどのように行うのがよいか。
 - FloatingIP を設定した VM から、HOKUSAI ログインノードに対して scp や rsync が可能である。
- プール型の利用では、ラボ VLAN と常時 VPN 接続しても問題ないか。別のやり方があるか？
 - プール型のテナントにソフトウェアルータを構成してトンネリングも可能である。ただし理研外部との直結はやめてほしい。
- VM のネットワーク帯域はコア数に比例するなどの方法で割り当てられるか？利用できるネットワークの帯域が他の利用者の影響を受けることはあるか？
 - コア数に比例した帯域制御等を行っていない。最大(46 コア)フレーバーを使用しノード占有することで、ノードのネットワーク帯域を占有可能である。
- オンデマンド型でシステムの混み具合というのはモニターできるか？プール型への移行の検討に役立つかと思う。
 - 管理コンソールでは自身のプロジェクトのリソース状況のみ参照可能である。システム全体の使用状況を確認することはできない。
- フローティング IP アドレスを固定するか、DDNS のような仕組みはあるか？
 - 割当てられたフローティング IP は削除しない限り固定である。そのため DDNS のような仕組みは本システムでは用意していない。
- オンデマンド型で混みすぎたとき、予約待ちのような状態になるか？
 - VM 起動に失敗するだけである。
- 理研内のほかのラボをメンバーに加えても良いか？
 - 支払責任者が認めれば問題ない。
- 理研外の方が VM の利用者になってもよいか？

- VMの利用者についてはこちらでは関知できない。セキュリティを維持したかたちで使ってもらえるならこちらとしては問題ない
- 理研認証基盤の Shibboleth 認証を Linux インスタンス内から利用可能か？
 - 別途相談してください。
- 当面は、コンテナでなく VM を提供するイメージか？
 - 通常の docker だけなら VM 上にインストールすることですぐに使用可能である。また、Kubernetes 環境構築手順の提供も可能である。
- 遺伝研スパコンのように Singularity イメージなどをアプリケーション領域に置いてもらうことは可能でしょうか？
 - アプリケーション領域に用意することを検討します。